

恵まれた環境や限りある資源を活かし、育み、永く使うことができる庁舎

整備方針

- ・将来の市民ニーズの変化や組織改編等に対応できる、可変性の高い庁舎とします。

(1) 可変性を持たせた整備手法

- ・将来の市民ニーズの変化や組織改編に対応したレイアウト変更を容易にするため、構造躯体（スケルトン）と間仕切りや設備（インフィル）を分けて施工するスケルトン・インフィルを採用します。
- ・ユニバーサルレイアウトを前提としたオフィスレイアウトとすることで、行政ニーズの変化による組織改編や業務の拡大・縮小などに柔軟に対応します。
- ・レイアウト変更を想定したエリア単位で制御可能な電気・空調設備を整備をします。
- ・職員数や来庁者の減少に伴い余剰床が生じた場合を想定し、交流・共創スペースへの転用、部分的な貸し出し、その他の用途への変更などに対応できる汎用性の高い計画とします。

